

第7回田んぼの生物多様性向上10年プロジェクト地域交流会 IN 小田原 田んぼで育つ、ひと・稲・生きもの交流会 in小田原

第Ⅰ部 田んぼ巡り

酒匂川東岸の消費者参加や、生きものと共に存する田んぼの見学

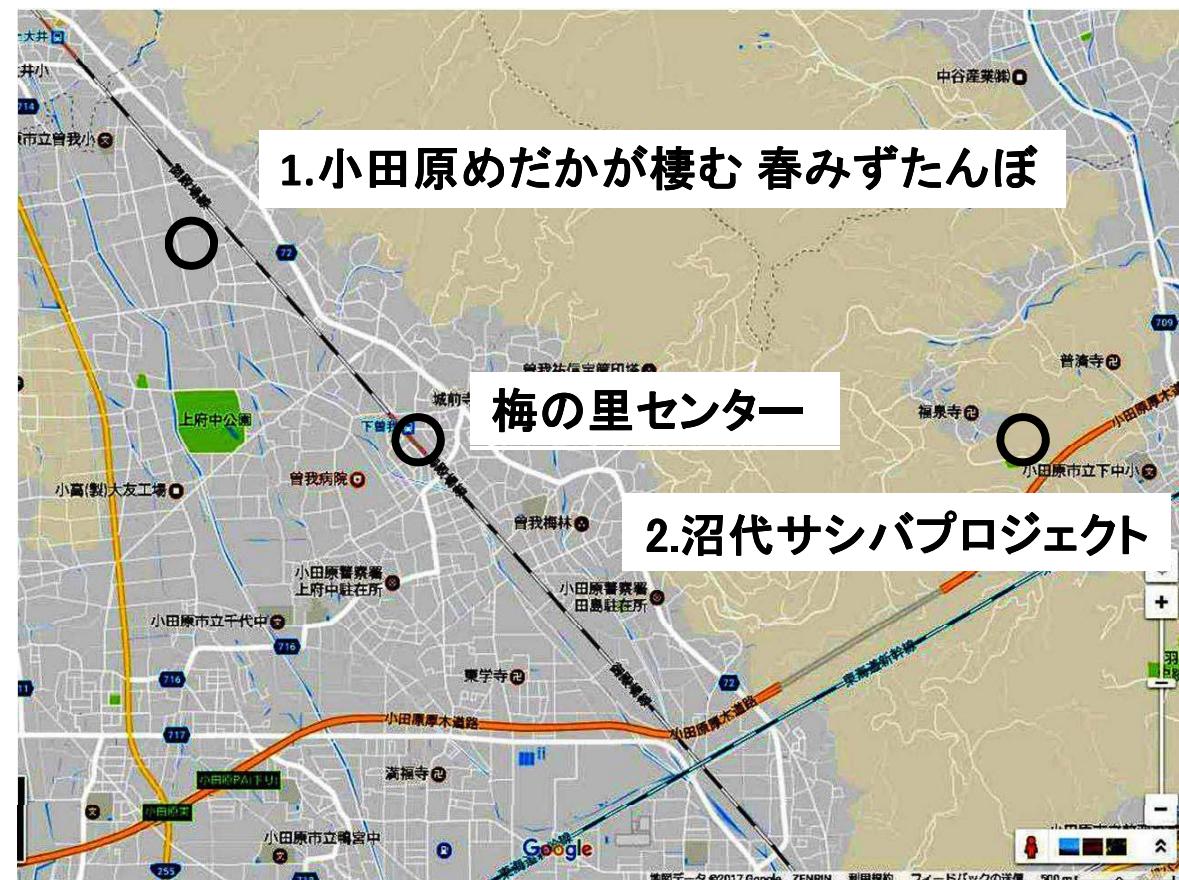
梅の里センター発

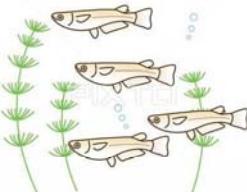
1. 小田原めだかが棲む 春みずたんぼ

石川信夫(小田原食とみどり)

2. 沼代サシバプロジェクト

伊豆川哲也(日本野鳥の会神奈川支部)





NPO法人小田原食とみどり

小田原めだかが棲む 春みずたんぼ

ここは、小田原食とみどりの拠点のたんぼで、無農薬での米作り15年目になります。たんぼの学校の2年生～ベテランで構成する「豊年俱楽部」参加者50名ほどが7枚のたんぼを耕作しています。すべて耕作放棄地を借りての活動です。

NPOたんぼの岩渕成紀氏や、民間稻作研究所の稻葉光圧氏の助言で、春みずたんぼを実践したところ、隣接するたんぼの地主さんから水漏れで迷惑しているとの苦情があり、今は地元組合のスケジュールに合わせて水を入れています。昨年から、「あしがら冬水田んぼの会」伊豆川さんの依頼で一時的に水を入れ研究に協力しています。

たんぼに入る水をぬるめるためのビオトープには、小田原めだかを放して観察し保護しています。熱心に観察研究していた龍太郎くんが高校生になりたんぼを卒業してから、ビオトープは手入れが行き届きませんが、冬場はメンバーがめだかを連れ帰り、田植え後にまた放します。（繁殖まではいません）



～第Ⅰ部 田んぼ巡り 資料～

沼代サシバプロジェクト

2017 H29/6/18
日本野鳥の会 神奈川支部 西湘ブロック
サシバプロジェクトチーム伊豆川哲也

- ①サシバ：水田に普通にいた小型の鷹。夏鳥
- ②絶滅しそう。絶滅危惧II類 環境省。県内繁殖は一か所。
- ③沼代は西湘地区最後の繁殖地だった(2001年頃まで)
- ④繁殖を復活させたい

沼代サシバPJ

サシバとは？

繁殖地
越冬地
琉球列島～東南アジア

サシバの巣
出典：市販版「サシバの巣」(つぐみ基本図説2014年)

サシバ
ヘビ、カエル
モグラ等
昆虫
(ガの幼虫、バッタ等)
植物 (樹林、田畑)

減少要因

- ①高齢化による耕作放棄
(沼代の場合)
- ②谷戸田の埋立て
- ③農薬
- 餌 (カエル、バッタ等) 減少

沼代サシバPJ



沼代のココがすごい

1. タイムスリップした谷戸の棚田景観
2. 冬でも湧水があちこちから湧く湿田と小川
3. 県内で減った水生動物が、沼代にはいっぱい残る！
4. サシバが最後までいた地域だったと実感
→親子で参加できるイベントで大切さを伝えよう

ヒレンジャク
トウキョウダルマガエル
マユタテアカネ
ヤマトヌマエビ
ヤゴ
生き物調査
サシバ祭 市長

沼代

サシバの餌と狩場を復活させよう

サシバの減少要因

耕作放棄 → 高茎草本化 → 餌 (カエル、トカゲ等) 減少
狩りが下手なので高茎草本では狩りができない → 狩場が減少

1. 野鳥の会にて草刈機を購入 (沼代での活動3年目に小田原市の補助金にて)
2. 高茎草本化した休耕田を次々に湿地へ戻す
3. 地元の理解が徐々に得られ高齢農家から草刈りのお願いが次々に

沼代サシバPJ

地元との新しい連携

沼代の背景へ

3年前から沼代にお移住し、サシバの保護活動を行っている「サシバプロジェクトチーム」です。これまでの活動と耕作放棄による影響などをご紹介します。

サシバはカワウの大きさで、農業の暮らしと共に生きてきた、農山漁村である沼代です。農業と漁業がジャックル柄で、カエル、バッタ、ヘビ、カブトムシ、カニ等、様々な生物が豊富に棲息しています。また、沼代では毎年、春の「サシバ祭」が開催されています。

・Uターン青年がリーダーとなる農業青年団ができた。
・休耕田を借りて無農薬自然農法

尚、当農場は、立農2年目でまだ育てた子供たちと、農業と女性の交流

4年目現在おまかせ人の母の2女、娘。

・地元の方々に、理解していただくため、回覧板に掲載
・開発から取り残された棚田は、今や貴重な宝
・野鳥の会はよそ者だけ
不審者ではない
・草刈りや野焼きをする

1. 互い目的は異なるが、美しい棚田の復活で共鳴
2. サシバの餌動物を増やすため、休耕田を起こし水田復活

沼代サシバPJ

ついに実現 市民田植えイベント



市民田植え 休耕田を開墾

小田原市役所と地元青年団と野鳥の会で共同開催。2013、(2014雨天中止) 2015、2016、2017

- ・ヌルヌルした感触！ 懐かしい手植え
- ・生きもの観察会も同時開催
- ・湧水の湿地と小川は水生動物がいっぱい。
- ・地元の農産物で豚汁の昼食

沼代サシバPJ

7

サシバ米 環境貢献、高付加価値



農作業と一緒に手伝って
いたたいている地元の障
害者就労支援施設（よる
べ沼代）へお米をクリス
マスプレゼント



無農薬に天日干し 彼岸花が咲く秋の棚田

サシバ米

1. 環境にやさしく（棚田復活）
2. 安全安心（無農薬）
3. 水が綺麗（湧水）で、さらりとして美味しいと評判

沼代サシバPJ

8

課題と今後の展望

- ①継続的な活動資金が必要 草刈り機燃料・修理、イベント費(印刷、講師料、料理)一助成金？ 農産物販売？
- ②野鳥の会も高齢化 →新しい仲間が参加しやすいしくみが必要
- ③知られ過ぎた場合 →農作業の邪魔、虫・魚の採集マニア
- ④まだサシバが戻らない。H21.4活動開始。→まだ餌不足？ →通過サシバが気づかない？
- ①有志が集い、農家も、地域団体(就労支援施設、学校等)も、よそからくる参加者も、双方win-winにしたい。 →参加者が、農業を体験し支援し、自然を楽しめて、経済協力(農産物購買等)できるしくみ

沼代サシバPJ

9

野鳥の会西湘ブロック 活動紹介 非会員・初心者OK

- 予定 天候や会員の都合により変更となることがあります。お問い合わせください。
 ・毎月2回(平日) 沼代草刈りボランティア 8時30分 集合: 桜の馬場又はサシバ物置
 ・H29年8月5日(土) : 沼代棚田で水辺の動物調べ！カエルやサワガニに会おう！
 8：50集合。12時解散。 集合: 小田原沼代「桜の馬場」
 ■観察会の場所: 沼代、酒匂川、酒匂川のコアジサシ保護活動、狩川、仙人川、御嶽神社の照葉樹(南足柄市三竹)、赤田(大井町)、渋沢丘陵、サシバの渡りカウント(万葉公園南足柄市足柄峠)、南足柄市長泉院、21世紀の森、箱根湖周辺、真鶴半島3月、丹沢湖、湯河原等
 ■活動紹介hp
 動画 小田原市役所hp「市民力」Vol.43 「サシバプロジェクトチーム」で検索
 ブログ①: Little Tern's Room 賴ウメ子のブログ <http://a011w.broadaj.jp/sasibatokoazisasi>
 ブログ②: 小田原市ブリの森づくりプロジェクト <http://blog.goo.ne.jp/burinomori> ブリ里農業コーナー
 ■問い合わせ 日本国野鳥の会 西湘ブロック
 ①リーダー : 賴ウメ子 携帯080-5643-9894 rai.odawara@a011.broadaj.jp
 ②沼代草刈活動日: 杉山健二 0463-87-2119 sugiyamakenji@nifty.com
 ③会員 伊豆川哲也 : 携帯090-4963-8860 izkw_tetsuya@yahoo.co.jp facebookあり

沼代サシバPJ

10

質疑応答

萌芽薪炭林の再生(今後の展望の1つ)

- ①放置雑木林の環境を再生したい。 → 物質的にも経済的にも循環する仕組みにしたい。
- ②森の保水力向上 : 渇水でも水田の安定生産。枯れない湧水 → 水生生物が増える。冬期湛水。
 理由: コナラ老木林より、萌芽して若いコナラ林の方が、根の活性が高く保水力が高い(?)。
 若い萌芽林は林床の草本層が豊かなので、草本層による保水力が向上(?)。
- ③里山の林床草本の復活 → シュンラン、ニリンソウ、カタクリ、スマレ類
- ④間伐材 → 炭焼きを始めた地元の若者へ → 炭販売で経済循環
- ⑤森と水田を往復する動物によるメリット
 → 林床の草本層が豊富
 → 飼昆虫が増えて森林性カエル(ヤマアカガエル等)が増える
 → 森から水辺へ産卵期に降りる
 → 水田にオタマジャクシが増える
 → トンボ等の肉食水生昆虫が増える
 → 稲の害虫を捕食する。増えたカエルがサンバの餌になりサンバが復活

沼代サシバPJ

11

沼代サシバPJ